

平成 30 年度（技術・家庭 家庭分野）授業改善推進プラン

	指導方法の課題分析	具体的な授業改善策	補充・発展的な指導計画
1 年	<p>授業の内容が小学校と比べると難しくなっている。被服ならではの用語など理解することが難しい。</p> <p>作業も小学校の復習から行っている。小学校で先生や友達、家の人に手伝ってもらい作業に向き合っただけでこなかった生徒は、手の動きがついてこれないことが多い。</p> <p>授業中、自分で理解できない所があるとすぐに人に聞いてしまうことが多く、静かに作業に向き合えなくなる人も多い。</p> <p>黒板の指示でどこまで、作業内容が理解できるが課題である。</p>	<p>本物の道具を実際に見せ、使用し、道具の名称や使い方を確認していく。</p> <p>小学校でどこまで技術が身に付いているのか、まずは、確認する。次に、中学生の技法や取り組み方を一つずつ、確認しながら教えていく。また、自分だけで作業を行わせていくことでそれなりに手が動いてくるようになる。このような取り組み方を通して、自分でできる、作業が進む、作品が完成するという体験をさせていく。</p> <p>生徒の力量に合わせた指示をするよう留意していく。</p>	<p>今日の課題が終わって、次も進めていきたいと思うような、小さな課題を提示する。また、課題が終了したら、自分でプリントに評価を入れ、終わったことを確認できるように表を作り、可視化していく。</p>
2 年	<p>話し合い、発表、実習を中心に、グループでの作業が多くなる。その分、生徒同士の温度差が生まれてくることが多い。</p>	<p>温度差を班の中で補うことができるよう、話し合いの時間を確保していく。</p> <p>メインの仕事や作業だけでなく、班の中で、互いの助け合いの場面も見取っていく。そのために、作業の様子をしっかりと見て回り、声かけをしていく。</p>	<p>ワークのまとめを定期的に確認していく。</p> <p>授業の実習、観察、経験した感想、まとめをしっかりと読み取っていく。</p>
3 年	<p>年間の授業時間が少ないので、試験を意識しながらの授業のため、急いでしまうことがある。</p>	<p>学期ごとの授業時数を把握し、見通しをもった授業をしていく、同時に生徒にも限られた時間を意識させていく。</p>	

様式 3